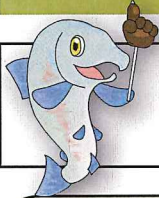




知床科学委員会 しんぶん

河川工作物

アドバイザー会議 No.3



「知床で今何が起きているの!?!」「どんな調査が行われているの!?!」など、タイムリーな情報をお伝えします!

河川工作物 アドバイザー会議って?

知床はサケ・マスの遡上に代表される陸と海のつながりが評価されて、世界自然遺産に登録されました。「河川工作物アドバイザー会議」では、災害から生活を守りながらサケやマスが遡上できるように、各専門家が行政機関に対して、ダム改良工事や遡上調査について助言をしています。

今回の会議

10月22日に羅臼川、サシルイ川、チエンベツ川(羅臼町)、23日にイウウベツ川、ルシャ川(斜里町)で現地検討会を行い、24日に斜里町産業会館で会議を開きました。

構成メンバー

- 中村 太土 (座長) (北海道大学 教授)
 - 帰山 雅秀 (北海道大学 教授)
 - 小宮山英重 (野生鮭研究所 所長)
 - 妹尾 優二 (流域生態研究所 所長)
 - 丸谷 知己 (北海道大学 教授)
 - ※大泰司紀之 (北海道大学 名誉教授)
 - ※河口 洋一 (徳島大学 准教授)
 - ※谷口 義則 (名城大学 准教授)
 - ※山中 正実 (斜里町立知床博物館 館長)
- ※アドバイザーとして特別に参加して頂きました。

必見! TOPIC

改良したダムの評価が始まる!!

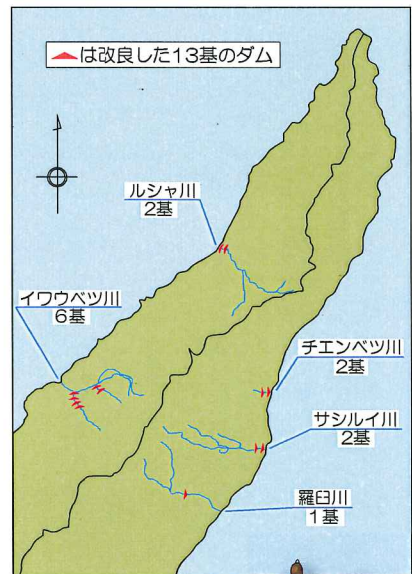
サケやマスの遡上等を目的に改良が進められてきた13基のダムの工事が今年中に全て終了します。これを機に、現在、河川工作物アドバイザー会議の委員により、これらダムの改良による成果や課題等の取りまとめを行っています。



ワーキングチーム会議の様子

これまで「ダムの改良によりサケ科魚類を上流へ遡上させることは概ね成功している」との評価がある一方「産卵に適した環境が守られていない」との評価もされています。

今年度末に向けて取りまとめを行い、皆さんへ情報発信していきたいと考えています。



今回の現地検討会では、改良した13基のダム全てを視察してきました。



今回話し合ったこと

- ① 羅臼川（羅臼町）における砂防ダム改良工事について
- ② 長期モニタリングについて
- ③ 第36回世界遺産委員会決議について

今回

「長期モニタリング」が始まる！

長期モニタリングとは？

- ・「遺産登録時の生態系や生物多様性が維持されているか」
- ・世界遺産センターと国際自然保護連合からの宿題（勧告）に対応できているか」
- ・「遺産地域管理計画に記載された管理ができていないか」
- ・の3点を評価するため実施するモニタリングです。多数のモニタリング項目があり、この内、次の2つが河川に直接関係するモニタリングです。

オショロコマに関する長期モニタリング

知床半島は、降海型オショロコマの低標高域における世界の分布南限域に該当します。オショロコマは水温に非常に敏感です。夏季の最高水温が20℃を超えると活性が劣り、22℃を超えると生息できなくなるといわれています。

知床地域の気温は近年の温暖化により上昇傾向にあります。オショロコマの生息状況や水温を調査することにより



▲オショロコマ



来年から調査をはじめます！

今回

今年度のダム改良工事

世界遺産の区域内を流れる5河川において13基のダムの改良を目標に掲げ、すでに12基のダムの改良が終了しています。最後の改良ダムである羅臼川の、羅臼ビシターセンター前の砂防ダムは平成24年内に改良を終える予定です。



▲砂防ダムのスリット化

サケに関する長期モニタリング

サケやマスの遡上数が減っていないか？ダムの影響はないか？などを評価するため、今年からルシヤ川（斜里町）、テッパンベツ川（斜里町）、ルサ川（羅臼町）で長期モニタリングを開始しました。

河口部での遡上調査や産卵床調査、さらには知床ではヒグマが多く生息していることから、ヒグマが調査に及ぼす影響についても調べています。

今年度は、試験的な調査として実施し、これら調査結果を評価し、来年からの調査につなげていきます。



▲ルシヤ川河口に出没するヒグマ



▲カラフトマス

ご存知ですか？

カラフトマスは1年毎に回帰量が大きく変動します。回帰量が多い年は一般的に豊漁年、少ない年は不漁年と呼ばれており、今年是不漁年となっております。漁業関係の人にお聞きしたところ、今年是不漁年に輪をかけて不漁とのこととです。一昨年の不漁年の半程度とも言われています。

今年度は試験的な調査をしています



会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

問合せ先

北海道森林管理局 企画調整部 保全調整課
 〒064-8537
 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番
 ダイヤルイン：011-622-5231
 FAX：011-622-5194

- 発行：林野庁北海道森林管理局
- 制作：株式会社 森林環境リアライズ
- 発行日：2012年11月30日



座長の中村です。



北海道大学森林生態系管理学研究室教授。北海道の森林と川のつながりなど、生態系間の相互作用を土地利用も含めて流域の視点から研究しています。

河川工作物の改良も、羅臼川の砂防ダムを残すのみで、現在はこれまでに改良されたダムのモニタリングならびにその評価が実施されています。当初は、サケ科魚類の遡上を目的に改良工事を進めてきましたが、評価の結果、ダム改良区間における産卵や生息環境の劣化が明らかになりました。さらに、温暖化指標であるオショロコマについては、ダムによる水温上昇や稚稚魚の欠落などが報告され、今後注意深く監視していきたいと思えます。

座長 中村 太士